

船舶事故調査報告書

令和5年3月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和4年6月9日 17時55分ごろ（日本時間）
発生場所	パプアニューギニア独立国ポートモレスビー港 （概位 南緯09°32.0′ 東経147°07.0′）
事故の概要	漁船第一二八海形丸 ^{かいがた} は、航行中、浅瀬に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和4年9月1日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	漁船 第一二八海形丸、479トン 142133、海形水産株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級（航海）
負傷者	なし
損傷	両舷ビルジキールに曲損、船底外板に凹損等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 ほとんどなし、視界 良好 海象：海上 平穏 日没時刻：17時30分ごろ
事故の経過	本船は、船長ほか23人（日本国籍6人、インドネシア共和国籍17人）が乗り組み、ポートモレスビー港沖の漁場へ向かった。 本船は、約8ノットの対地速力で南西進中、船長が突然左舷前方にライトの点灯を認め、無灯火の小型船が至近に接近しているのに気付き、急いで右舵を取って北西進するとともに、減速して同船を避けたのち、主機を後進に入れたが前進行きあしを止めることができず、浅瀬に乗り揚げた。 本船は、自力では離脱できず、船長が船舶所有者に連絡し、来援したタグボートによって引き出され、錨泊地までえい航された。 船長は、浅瀬の存在を知っており、また、GPSプロッターを使用していた。 本船の喫水は、船首約2.0m、船尾約5.2mであった。
分析	本船は、南西進中、船長が、右舷方の浅瀬からの離隔距離を把握していない中、左舷前方至近に接近した無灯火の小型船に気付き、同船を避ける目的で右舵を取って北西進したことから、浅瀬に向かうことになって主機を後進に入れたものの、前進行きあしを止めることができず、浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が南西進中、船長が、右舷方の浅瀬からの離隔距離を把握していない中、左舷前方至近に接近した無灯火の小型船に気付き、同船を避ける目的で右舵を取って北西進したため、浅瀬に向かうことになり前進行きあしを止めることができず、浅瀬に乗り揚

	げたものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、浅瀬から離隔距離を確保しておくこと。・ 船長は、夜間、目視で発見できない船舶がいることを考慮し、安全な速力に減速して十分に注意して航行すること。・ 小型船の船長は、夜間に航行する際は、灯火を表示すること。